

台風 東日本で猛威

長野に支援物資発送

倉敷市「豪雨時の恩返し」

昨夏の西日本豪雨で風19号で長野県・千曲川
の堤防が決壊し、大規模な浸水被害が発生
。倉敷市は13日、台



支援物資を積み、倉敷市役所を出発するトラック

している長野市に対し、毛布や飲料水などの支援物資を送った。

支援物資は、毛布310枚、飲料水(500リットル)240本、畳156枚、段ボールベツド30セット、段ボール5箱分のタオルなど。いずれも災害用の備蓄品で、トラック2台(最大積載量2ト、3ト)に積み込んだ。市役所正面玄関前で出発式を行い、伊東香織市長はトラックで現地に行く市職員4人に対し、「昨年の豪雨で私たちは多くの支援を

いただいた。感謝の気持ちを持って出発してほしい」と激励した。両市は、中核市同士の災害時相互応援協定を結んでいる。倉敷市は河川が氾濫している福島県の相馬市と南相馬市にも支援物資を届ける方針。(石井聡)

AMDAは

医師1人派遣

国際医療ボランティアAMDA(岡山市北区伊福町)は13日、長野県に医師を派遣した。台風接近に備えて

関東地方に事前派遣していた看護師も合流し、現地でニーズ調査や支援に当たる。登録ボランティア

で、徳島大大学院医歯薬学研究部助教の鈴記好博医師(54)＝徳島

市。JR岡山駅から新幹線で出発した。千曲川流域を中心に医療や生活用品の必要性などを把握し、支援につなげる。

鈴記医師は「水害後は感染症が増える傾向にあり、健康被害が出ないよう支援したい」と話した。

看護師は11日に派遣。9月の台風15号の影響で大きな被害を受けた千葉県で情報収集などを行っていた。

AMDAと総社、赤磐市などの合同チームも、14日に福島県相馬市へ総勢11人の支援隊を送る。トイレトペーパーなどの生活用品を届けるほか、り災証明書発行のための現地調査のサポートなどに当たる。(山本恭子)